津軽の文豪　太宰　治

# タクシーで巡る 小説『津軽』の名シーン

地元ドライバーだけが知っている

## ①＜修ッちゃあ・幼年の思ひ出 編＞

**～五所川原・金木～**

所要時間　：　約２時間
料　　金　：　13,400円（車種：普通車 １台）

## ②＜感動の再会・クライマックス 編＞

**～小泊まで～**

所要時間　：　４時間
料　　金　：　２６，８００円（車種：普通車１台）

## ①＜ 修ッちゃあ・幼年の思ひ出 編 ＞ ～五所川原・金木～

所要時間　：　約２時間
料　　金　：　13,400円（車種：普通車 １台）
＜コース＞
＊叔母：きゑの嫁ぎ先・・・ハイカラ町
＊中畑さん宅、おけいちゃんとの散歩道
・・・中畑さん宅、招魂堂、岩木川、乾橋

「私は片手で欄干を撫でながらゆつくり橋を渡つて行つた。いい景色だ。東京近郊の川では、荒川放水路が一ばん似てゐる。河原一面の緑の草から陽炎がのぼつて、何だか眼がくるめくやうだ。さうして岩木川が、両岸のその緑の草を舐めながら、白く光つて流れてゐる。「夏には、ここへみんな夕涼みにまゐります。他に行くところもないし。」　五所川原の人たちは遊び好きだから、それはずいぶん賑はふ事だらうと思つた。」　小説「津軽」より

＊ 五所川原駅 津軽鉄道
⇩ 20分　＜津軽鉄道に沿って、金木へ＞
＊ 斜陽館（太宰治記念館）：入館料あり（一般 500円）

⇩ 徒歩

「明治の大地主、津島源右衛門（作家太宰治の父）が建築した入母屋造りの建物で、明治四十年六月に完成する。米蔵にいたるまで日本三大美林のヒバを使い、階下十一室二百七十八坪、二階八室百十六坪、付属建物や泉水を配した庭園などを合わせて宅地約六百八十坪の豪邸」　小説「津軽」より

・・・おみやげは、観光物産館「マディニー」で小説『津軽』の単行本を買って記念スタンプを！

＊ 雲祥寺
・・・たけの生家：近村家の菩提寺
・・・地獄絵図（十王曼陀羅）卒塔婆（後生車）

「六つ七つになると思い出もはっきりしている。（中略）たけは又、私に道徳を教えた。お寺へ屢々連れて行って、地獄極楽の御絵掛地を見せて説明した。火を放けた人は赤い火のめらめら燃えている籠を背負わされ、めかけ持った人は二つの首のある青い蛇にからだを巻かれて、せつながっていた。血の池や、針の山や、無間奈落という白い煙のたちこめた底知れぬ深い穴や、到るところで、蒼白く痩せたひとたちが口を小さくあけて泣き叫んでいた。嘘を吐けば地獄へ行ってこのように鬼のために舌を抜かれるのだ、と聞かされたときには恐ろしくて泣き出した。」　小説「津軽」より

「卒塔婆には、満月ほどの大きさで車のような黒い鉄の輪のついているのがあって、その輪をからから回して、やがて、そのまま止ってじっと動かないならその回した人は極楽へ行き、一旦とまりそうになってから、又からんと逆に回れば地獄へ落ちる、とたけは言った。たけが回すと、いい音をたててひとしきり回って、かならずひっそりと止るのだけれど、私が回すと後戻りすることがたまたまあるのだ。秋のころと記憶するが、私がひとりでお寺へ行ってその金輪のどれを回して見ても皆言い合せたようにからんからんと逆回りした日があったのである。私は破れかけるかんしゃくだまを抑えつつ何十回となく執拗に回しつづけた。日が暮れかけて来たので、私は絶望してその墓地から立ち去った。」　小説「津軽」より

3分

＊ 南台寺
・・・津島家菩提寺。「対馬」姓になっています。先祖の墓を挟んで、向かって左に父・源右衛門、右に長兄・文治（元知事）の墓が建っている。
・・・たけが本を借りてきてくれた日曜学校

＊ 太宰散策の道：　～金木小学校（明治高等小学校跡）、芦野公園へ到る道

＊ 芦野公園駅

⇩ 徒歩

「芦野公園という踏切番の小屋くらいの小さい駅に着いて、（中略）窓から首を出してその小さい駅を見ると、いましも久留米絣の着物に同じ布地のモンペをはいた若い娘さんが、大きい風呂敷包みを二つ両手にさげて切符を口に咥えたまま改札口に走って来て、目を軽くつぶって改札の美少年の駅員に顔をそっと差し出し、美少年も心得て、その真白い歯列の間にはさまれてある赤い切符に、まるで熟練の歯科医が前歯を抜くような手つきで、器用にぱちんと鋏を入れた。少女も美少年も、ちっとも笑わぬ。当り前の事のように平然としている。少女が汽車に乗ったとたんに、ごとんと発車だ。まるで、機関手がその娘さんの乗るのを待っていたように思われた。こんなのどかな駅は、全国にもあまり類例が無いに違いない。」　小説「津軽」より

＊ 太宰文学碑・芦の湖・・・「撰ばれてあることの／恍惚と不安と／二つわれにあり」とヴェルレーヌの詩の一節が彫ってある
⇩ 20分
＊ 五所川原

## ②＜ 感動の再会・クライマックス 編 ＞ ～小泊まで

所要時間　：　４時間
料　　金　：　26,800円
＊ 五所川原駅　・津軽鉄道～　＜津軽鉄道に沿って、金木へ＞
⇩ 20分
＊ 斜陽館（太宰治記念館）＊ 雲祥寺 ＊ 芦野公園駅
⇩ 20分
＊ 十三湖

「十三湖が冷え冷えと白く目前に展開する。浅い真珠貝に水を盛つたやうな、気品はあるがはかない感じの湖である。波一つない。船も浮んでゐない。ひつそりしてゐて、さうして、なかなかひろい。人に捨てられた孤独の水たまりである。流れる雲も飛ぶ鳥の影も、この湖の面には写らぬといふやうな感じだ。」　小説「津軽」より

⇩ 30分
＊ 小泊村：太宰とたけ再会の道、運動場
・・・　節さんの案内でやっと小学校の運動会の掛け小屋にたけを訪ねた太宰とたけの再会シーンまで
・・・　たけの嫁ぎ先：越野金物店。南京錠は・・・・・
＊ 小説『津軽』の像、記念館　・・・　こちらでも、単行本を販売しています。スタンプもあります！
・・・　太宰とたけの間に立って、二人の肩に手を置き・・・・・クライマックスシーンに吸い込まれていきます・
・・・・　＜記念写真を＞
⇩ 60分
＊ 五所川原

＜企画・運行＞ あたたかみ・親しみのある 五所川原交通株式会社

お申し込み・お問い合わせ　0173 (34)3232・(35)3030